

【研究課題名】 588-2 手術患者における Surgical Apgar Score と予後との関連性の検討

【実施責任者】 麻酔科学教室 教授 川口 昌彦

【実施分担者】 集中治療部 助教 野村 泰充
麻酔科学教室 学内講師 林 浩伸
中央手術部 学内講師 田中 優
集中治療部 准教授 井上 聡己

【研究の意義】

術後の予後予測因子として最低平均動脈圧、最低心拍数、推定出血量から算出されるSurgical Apgar Score (SAS)が注目されており、様々な状況におけるSASの予後予測因子としての有効性が検討されている。くも膜下出血や脳出血などの緊急の開頭手術においては、術後の全身管理や気道管理の方向を推測する上で早期に予後を予測することは重要である。

【研究の目的】

緊急の開頭手術患者における SAS と予後との関連性について検討する。

【研究の方法】

研究デザイン：後ろ向き観察研究

研究対象者：2007年1月から2012年9月30日までに、奈良県立医科大学附属病院で緊急手術として全身麻酔を施行された開頭患者。

データ収集とその解析法：麻酔記録及び電子カルテにて以下の情報を抽出する。

- 1) SAS：術中の最低平均血圧、最低心拍数、推定出血量。これにより0-10点のSASを算出する。
 - 2) 患者背景：年齢、性別、体重、身長、疾患名、術式、手術部位（テント上又は下）、術前にGlasgow Coma Scale (GCS)
 - 3) 術後因子：術後1カ月までの重大合併症の有無。重大合併症は過去の報告に準じ、腎不全、4単位以上の輸血、心停止、肺血症、心筋梗塞、肺炎、48時間以上の人工呼吸、深部静脈血栓などと定義する (Acta Anaesthesiol Scand 2011;55:524-529)。
- 術後一カ月での死亡率と Glasgow Outcome Scale (GOS)。

【研究機関名】 奈良県立医科大学 麻酔科学教室

【個人情報の扱い】

個人情報については、患者情報を外部ネットワークから遮断されたコンピューターで入力管理する。各症例で統計整理番号を割り付けし、統計学的処理は、患者ID、氏名、生年月日を削除し、別ファイルを作成したうえで、連結可能匿名化情報として、別のコンピューターにておこなう。

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：麻酔科学教室 川口 昌彦

〒634-8522

奈良県橿原市四条町 842

TEL 0744-22-3051